

平和への誓い

戦争は人間のしわざです。

戦争は人間の生命を奪います。

戦争は死そのものです。

過去を振り返ることは、将来に対する責任をになうことです。

広島を考えることは、核戦争を拒否することです。

広島を考えることは、平和に対しての責任を取ることです。

これは今年亡くなった前ローマ法王ヨハネ・パウロ二世が1981年2月に、ここ平和記念公園の原爆死没者慰霊碑の前で世界へ発信したメッセージの一部です。

わたしたちは、これまでずっと世界平和の実現を訴えてきました。

しかし、世界では今なお核兵器は存在し、戦争やテロなどが絶えません。そして、わたしたちと同じ子どもたちが銃弾や地雷に倒れ命を失っています。身のまわりではどうでしょうか。子どもたちが命を奪われたり、傷つけられたりする事件が起きています。暴力事件やいじめもなくなりません。

本当に平和な世界を築くために私たちは何をしなければならないのでしょうか。

戦争、争い、いじめ、暴力。これらを起こすのは人間です。人間の心です。だから、命を大切にする心、相手を思いやる心をふくらませていくことが大切です。まずは相手のことを知り、違いを理解すること。そして、暴力で解決するのではなく、話し合いで解決していくことがわたしたちにできる第一歩です。

ある被爆者の方の話を聞きました。

今まで被爆した時のことを人に話したことがなかったそうです。

たとえ、話をしても「あの時のことは誰にもわかってもらえない」と思っていたからです。

しかし、70歳を過ぎて、地元の中学生にあの日のことを話しました。

8月6日に起こったことを、原爆はいけないということを、戦争はいけないということを、どうしても知らせたかったのです。

被爆60周年を迎え、決意を新たにし、

わたしたちは、被爆者の方々の願いを受け継いでいきます。

わたしたちは、核兵器の恐ろしさを世界中の人々に訴え続けます。

わたしたちは、ヒロシマを語り継ぎ、伝えていきます。

平和な世界を築くまで。

平成17年（2005年）8月6日

こども代表

広島市立本川小学校 岩田 雅之

広島市立口田小学校 黒谷 栞